

本説明書は、室内ユニットの据付け方法を記載しております。  
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取扱い方法は、リモコン取扱いの説明書をご覧ください。ワイヤレスキットの取扱い方法は、ワイヤレスキット取扱いの説明書をご覧ください。  
室外ユニットの取扱い方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの取扱い説明書をご覧ください。  
また、故障診断は、室内ユニットの結線端子をご覧ください。  
給気処理ユニットは、室内ユニットとの接続容量は、50～100%（全給気処理ユニットの容量）にしてください。  
●他のエアコンユニットとの接続容量は、50～100%（全給気処理ユニットの容量）にしてください。  
●単独で給気処理ユニットを接続することができます。給気処理ユニットの接続容量は50～100%にしてください。  
室外機に接続できる給気処理ユニットは最大2台です。

## 安全上のご注意

- 据付者は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**[▲印]**、**[△印]**、**[■印]**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性があるものに**[▲印]**の欄にまとめて記載しています。しかし、**[▲印]**の欄に記載した事項でも、状況によっては大きな結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図認印」の意味は右のとおりです。**[△印]**必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、運転を行なう際、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様へ説明してください。この取扱説明書は取扱説明書と共に機器本体で保管いただくよう依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

## △警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付け工作をされた場合があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この取扱説明書に従って確実に行なう。  
据付けに不備があると破裂、ケガの原因となります。また水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 小部屋内・据付けの場合=万一路端に漏れても、限界程度を超えない対応をする。（JRGL-13）  
限界程度を超えない対応については、販売店と相談して据付けする。万一、冷媒が漏洩して限界程度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置場所は商品の取扱説明書に記載されている範囲を使用する。
- 据付けに不備があると、漏れや落とし、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業室内に冷媒が漏れた場合は換気装置を行なう。  
冷媒が火気に触ると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量にて十分耐える所で実施を行う。  
強度が不足している場合は、ユニットの落としなとなり、ケガの原因になります。
- 台風などの強度、地震に備え、所定の据付工事を行なう。  
据付工事に不備があると、転倒などによるケガの原因になります。
- エアコンの設置移設の場合は、冷媒サイクル内に直接冷媒（R410A）以外の空気などを入れない。  
空気が混入すると、漏れや落とし、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 電気工事は電気工事の専門家のもので、『電気設備に関する技術基準』、『内線規程』及び取扱説明書に従って施工し、必ず専用回路で接続する。
- 電気工事は、重量にて十分耐える所で実施を行う。  
電気工事は、重量にて十分耐える所で実施するが、電気工事の専門家による感電などの原因になります。
- 配管は、所定のツールを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や接合が不安な場合は、被裂、火災などの原因になります。
- 室内ユニットへの配管は、端子ドアが開かないよう整形し、力を与えて接付する。
- カバの取付けは不完全な場合は、端子接続部の発炎、火災、感電などの原因になります。
- 据付け完了後は、冷媒ガスを漏れないように確認する。  
冷媒が漏れると、漏れや落とし、水漏れ、火災などの原因になります。
- 配管は、工具（R22）の材質を使用する。工具の材質によっては、冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアコットは、トルクレンチで規定の角度で締付ける。  
フレアコットの取付け過ぎがあると、長期間後漏れが発生する冷凍サイクルの破裂の原因になります。
- ドレン配管はイカサガ等有毒ガスの発生する排気管に直結しない。  
室内に有毒ガスを吸い、中毒や窒息を起こす恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付け者は工具を正確に運転する前に対面して冷媒配管を取付ける。  
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常に高圧になり、破裂、火災などの原因になります。
- ポンプクリーン作業では、サービスバルブを開いた後配管を外す前に圧縮機を停止する。  
圧縮機停止後は、工具を離さず、工具の刃と工具の頭部で冷凍サイクルを開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が破裂、火災などの原因になります。
- オブショット部品は、必ず本社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。
- 改修は対応する。修理はお買い上げの販売店に相談する。
- 改修は対応する。修理はお買い上げの販売店に相談する。
- エアコンを移動設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
- 据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検は、電源コードがOFFのままで、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- ハネルやカートを外した状態で運転しない。
- 機器の回転部、高温部、高電圧部に触れる、巻き込まれたり、やけどの感電による原因になります。
- 元電源に切ったときに電気工事を行なう。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

## △注意

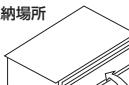
- アース（接地）を確実に行なう。  
アース線は、ガラス管、金属管、導電性漆料、電線のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電による感電や火災の原因になります。
- 漏電遮断器は必ず取り付ける。  
漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になります。
- 正しく容量の電線遮断器のブレーカー（漏電遮断器、手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）、配線遮断器）を使用する。  
不適切な容量のブレーカーを使用すると放電や感電の原因になります。
- 正しく容量のセーバー類は使用しない。  
針金やワイヤー類は、電線の引張りの原因になります。
- 可燃性ガスの漏れる場合の対応は行なわない。  
丁寧なガス漏れの原因に漏れると、発火の原因になります。
- 燃性ガス（液化石油ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用はしない。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規格のスペースを確保してください。  
スペースが不足する場合は、設置場所からの軒下よるケガの原因になります。
- 洗濯機など、水の掛けかねは使用しない。
- 室内に工具の落とし水に対する保護はしません。水が掛かると感電、火災などの原因になります。
- 食器、鍋類、プラスチック品の保管など的原因になります。
- 床面・運搬車両等での荷物を直接運搬する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。  
インバータ機器、自家発電機、高周波通信機器、無線通信機器、影響によるエアコンとの協同作業や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器・影響を与える人間の健康行為を妨げたり、映像放送の乱れや音楽などの弊害の原因になります。
- 直射日光の当たる場所にモニター設置しない。  
リモコンの設置が原因の変形や故障の原因になります。
- 次の箇所への直射日光の当たる場所は避ける。（機器により異なる制限があるので、その指示に従うこと）  
・可燃性ガスの漏れる場所がある所  
・電線や配管、配管部、アクリル・アクリル・アミノニアなど、ガラス管や金属管、パウダーなどが浮遊する所  
・電線や配管に影響する物質が発生する所  
・油の飛沫や蒸氣が多くいる（調理場、機械工具場など）  
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所  
・精肉の多い所  
・性質を悪くする所  
・性質を悪くする所をよく近づけない。
- 次の箇所への直射日光の当たる場所は避ける。（機器により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。  
・吸込口、吹出口に風の直接當る所  
・強度が不十分で振動が発生する所  
・ワイヤレスの場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所  
・高周波に影響される機器のある所（TVおよびラジオの近傍）  
・ドレンの排水がどれども  
・性能を発揮する所をよく近づけない。
- 1. リモコンの下部には、直射日光を避ける所は無いが、  
直射日光が80%以上の場所で、ドレン排水が詰まつた場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じことがあります。  
●長期使用で傷んだままの排水管を用意して使用しない。  
傷んだ状態で直射日光するニンジンの落としつらくなり、ケガなどの原因になります。
- ニンジン近くで直射日光を受ける場合は十分注意し、ニンジン内へのスッパの進入を防止する。  
浴槽や洗濯機などに直射日光に当たった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になります。
- ドレン工事は、据付け用具に従って確実に排水するように保管する。  
不確実な場合、屋内に水漏れ、火災などの原因になります。
- 日本製（アスカ）の排水管は、排水ドレン管は共用しない。  
室内に排水管が流入し、中性洗剤や漂白剤などを注入している場合、室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
- 冷媒配管の終端は結露しないように確実に行なう。  
排水管終端が露を出さないよう、露を防ぐ方法を確実に行なう。
- 万一本体部に冷媒ガスが漏洩して露点温度を越えると保冷効率の低下の原因になります。
- ドレン配管は必ず勾配（1/100以上）とし、途々山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。  
試運転時にドレン排水が確実に行なっていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断線は結露しないように確実に行なう。  
不確実な場合は、屋内に水漏れ、火災などの原因になります。
- 室内ユニットは、小動物や虫が侵入する危険な場所に設置しない。  
室内に動物が入り込むと、内部の配管や機器を壊したり、発火の原因になります。  
また、お客様より周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 製品の包装は必ず付けることを行なう。  
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPハンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。  
素手やフィンなどに触るときをするとケガをする場合がありますので保護器具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に行なう。
- 梱包材や工具などの金額あるいは、木片などを使用しているので放置状態にしますとケガをすることがあります。
- 工具は、工具袋に入れて保管する。  
工具袋に入れない工具は、工具袋などに表記して保管する。
- 書き込みなどはしない。  
書かれなどを作成し、天井・床その他、大切なものを満たす原因になります。
- 室内配管の終端は露を出さないよう、露を防ぐ方法を確実に行なう。
- 運転中の冷媒ガスを露する冷媒の状態により低温と高溫になります。素手で触ると凍傷や、やけどになることがあります。
- エアコンを水洗しない。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。
- 電源ノブが切られるエアコンの運転や停止をしない。
- 火災や水漏れの原因になります。

コントロールボックス



## ①据付けのまえに

- 据付けはこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。  
○機器・電線仕様 ○配管・配線・小物部品 ○付属品

付属品収納場所  
(梱包時)

## 付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用		
平座金（M10）	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース
8個	1個	1個	4本	1個	1個	ホースクランプ
ユニット吊下げ用	ガス管断熱用	油管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンシケット断熱用	ドレンシケット断熱用	ドレン配管接続用

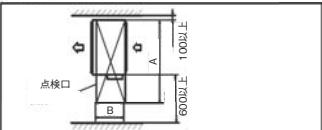
## ②室内ユニットの据付け場所の選定

- ①据付け場所は、下記条件をお客様の承認を得て選んでください。  
※適度な空気温度が十分に行きわざの所。長期間後フロアが3mを超えると暖房や天井にこもりますので、サーキュレーターの併設をご指導ください。  
・据付け・サービス時の作業スペースを確保できる所。  
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとどめ所。  
・嵌入式の影のない所。  
・直射日光の当たらない所。  
・周囲の露点温度が25°C以下、相対湿度80%以下の所。  
【本ユニットはJIS露点条件にて運転するが露水が滴下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさきに10~20mmの断熱材を取り付けてください。】  
・テレビ、ラジオよりも1以上離れた所。（映像の流れや音が生きることがあります）  
・ユニット真上に、食品、電子機器・パソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。  
・調理器具を発する熱の影響を受けない所。  
・フローラーの真上など油・粉・蒸氣等を直接吸引しない所。  
※光灯、白熱灯よりもできだけ離れた所。（ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります）  
②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われましたら、桁や柱等で補強して据付け作業を行なってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

## 室内ユニット据付けスペース

- 据付け高さは2.5m以上としてください。据付け時、サービス時のため下記2ケースのどちらかを選んでください。

(ケース1)ユニット側面からメンテナンスする場合 単位:mm



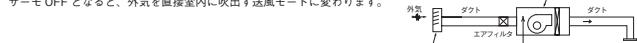
(点検口サイズ)		単位:mm
床舗VXPシリーズ	50.56	63.80
ビル屋上、ガスヒートポンプシリーズ	22.56	71.90
給気処理ユニット	—	90
A	786	985
B	1472	1472
C	135	180

\*1 ファンモータを側面へ引き出す構造となっております。隣室となるものを設置しないでください。

\*2 印刷所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設定してください。

## ③給気処理ユニットの据付け時の注意

- ①給気処理ユニットは吸込セラの感知温度とリモコン設定温度に基づき、発停を制御しております。  
リモコン設定温度は発停を制御する外温を示しています。冷房運転時にはリモコンOFFとなると、外気を直接室内に吹出す風モードに変わります。



②給気処理ユニットは外気を直接吹出す場合がありますので、直接室内の人間に風を当てないように配慮ください。

③ユニットは外温を検知して發停を制御しますので、リモコン設定温度の変更で室温を調整しないでください。冷房運転時にリモコン設定温度を下げ過ぎた場合、結露水が滴下する可能性があります。

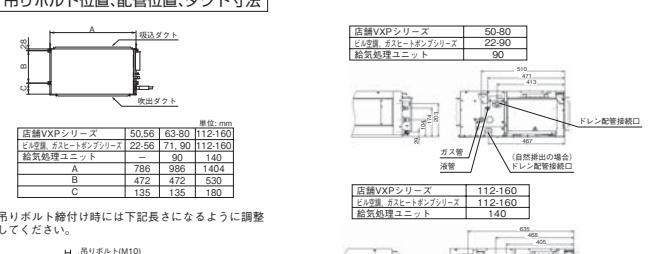
④一般的な人がリモコン操作することを避けるため、給気処理ユニットのリモコンは管理者だけが操作できる場所に設置してください。

お客様に製品をお渡しする際には、上記の注意事項、給気処理ユニットを操作するリモコンの設置場所、吹出口に位置をお知らせください。

## ④据付け前の準備

- 吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井（クリア＝天井・ライアン天井）のみの場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上ある天井とふとろ高さ700mm以上の場合は耐震ブレースを設置する。
- 強度が充分ある天井部に設置され直接スラブから吊り下げる場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上ある場合に耐震ブレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を4組程度にて手配してください。

## 吊りボルト位置、配管位置、ダクト寸法

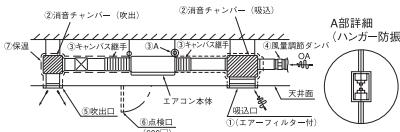


## ⑤室内ユニットの据付け

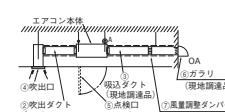
- 据付  
(吊り込み)  
○ユニットを吊り込んでください。
- ユニットを据え付けるとき、本体と天井・床との隙間を調整してください。
- 本体下面と水面高さが下図になるように調整してください。  
配管側 溝水注入  
水面  
0~5mm  
ビニールホース
- 本体を据え付けるとき、本体と天井穴の寸法が出てないときは、据付金具が長くなっていますので調整してください。
- 水平度の調整  
お願ひ  
○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行なってください。  
M10ナット  
吊りボルト  
M10用バネ座金  
本体  
M10用バネ座金
- 本体下面と水面高さが下図になるように調整してください。  
配管側 溝水注入  
水面  
0~5mm  
ビニールホース
- 水平度がでていないとフロートスイッチの誤作動あるいは不作動の原因となります。

## ⑥ダクト工事

### 高静圧ダクト (FDU)

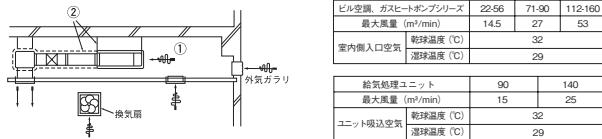


### 給気処理ユニット (FDU-F)



- ①エアコン本体にはエアフィルタが付属されています。掃除の容易な吸込グリルにエアフィルタを組込んでください。
- ②消音チャッパは据付ける際の内部の許容される騒音値によって取付けてください。
- 特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。(事務所、会議室などでは必ず取付けること)
- ③エアコン本体の搬送が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャップ接合、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
- ④ダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風量調節ダンパーを取り付けてください。
- ⑤ダクトは天井に据付するより、床面に設置するよりも施工が簡単で設置スペースも広いです。
- ⑥天井面に点検口は必ず設けてください。電露品、シーリング、熱交換器洗浄のために必要です。
- ⑦ダクトの保温材には必ず断熱し、ダクトとの結露を防止してください。保温材の厚さは約5mm (JIS A 9 501) です。
- ⑧送風機 (ファンモータ) には触れないようにダクトを接続してください。または吸込口を直込みで使用する場合は吸込口にエアフィルタを取り付けてください。

### ダクト施工の悪い例



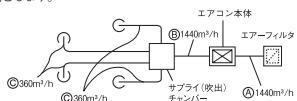
①吸込側ダクトを使用せず、天井内に吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラりに吹き付ける風の強さ、天候 (雨の日など) によって天井内が高湿度となります。

(イニット) の外板に結露しあがり下りるおそれがあります。

- ユニットは上部の結露しあがり下りるおそれがあります。
- ユニットは外壁の保温材及び断熱材で保護する必要があります。コンクリート建築物の場合、外壁の保温材はシーリングしないでください。温度が高くなることがあります。この場合はユニット全体をグラウエル (25mm) で保温してください。(金のみなどでグラウエルをさせてください)。
- (ロ) ニットは外壁の断熱材 (例: 外温3.5°C DB のとき吸込空気温度24°C WB) をこえる場合も考慮され、圧縮材のオーバーロードの原因となります。
- 外気扇の能力、外気ガラり吹き付ける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえて、しまうと熱交換器のドレインパンへ流れず、外部に漏れてしまうこともあります。(天井にドレンを下す) 水漏れの原因となります。
- ②ユニットの吸込口に、ドレインパンとドラップの防振をしないとドラップが伝わり、天井と吸込口の間で振動音が出来り、スラブユニットの振動が伝わることがあります。必ず振動してください。

### 簡易的なダクト寸法の求め方

ダクトの単位長さ当たり摩擦抵抗を1Pa/mとして、ダクトは一辺が吸込側は170mm、吹出側は200mmのものを使用する場合の方法を示します。80形、定格風量の場合を例とします。



### ダクト寸法選定図



ダクト寸法選定 (簡便に使う下の表を計算する)		
部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (240m³/min)	170 × 540
⑦部	360m³/min (6m³/min)	170 × 180

部品	風量 (240m³/min)	ダクト (mm × mm)
⑤部	1440m³/h (240m³/min)	200 × 440
⑥部	1440m³/h (2	

